

大津町議会 議会活性化特別委員会行政調査

氏名 大塚 益雄

視察研修名：大津町議会議会活性化特別委員会行政調査

視 察 先：岩手県陸前高田市、奥州市、北上市

期 日：令和6年5月8日（水）～10日（金）

研修テーマ：陸前高田市「議員定数見直しについて」

奥 州 市「議会改革全般について」

北 上 市「議員報酬見直し、市民と議員をつなぐ会について」

研修報告 意見・感想

研修目的：大津町において議員定数及び議員報酬の議論を検討しており、すでに議員定数を削減し議員報酬も増額された経緯と活動を確認して、今後の参考に
する。

視察研修メンバーは、活性化委員5名と議会事務局2名 計7名で陸前高田市議会視察、奥州市、北上市議会への訪問をして研修を行いました。

まず、5月8日（水）初日は、陸前高田市議会視察を行いました。人口17,118人で、野球選手としてはロッテの佐々木選手の出身地でもあり、市役所の正面入口の中央には佐々木選手の応援旗が展示されていて市民全員で応援されていることが感じられた。議員定数については、18人→16人に定数減がされており、議員数は16人で年齢としては30歳～70歳代で平均は59.5歳で女性は2人である。議員の報酬については、30万円である。1回/年で議会報告会を実施されていた。その中で、説明をしており問題はなかったようである。

定数減に対して、デメリットとしては、多様な意見がでて、まとめることが難しい。メリットとしては、意見を決めるのが早くできるようになった。

また投票率については、76.9%であり、県議、市議と同一であるため、投票率は高い方であると言われてました。それに女性議員2人いて、女性の立場の活発な意見が出ますと言われてました。

東日本大震災津波伝承館

高田松原津波復興祈念公園を視察して、命を守り海と大地と共に生きる。二度と東日本大震災津波の悲しみを繰り返さないためには、知恵と技術で備え、自ら行動することにより、様々な自然災害から命を守り、自然災害を乗り越えることが大切と感じた。また東日本震災津波の事実と教訓を、世界中の人々と共有し、自然災害に強い社会を一緒に実現することを目指しておられた。地震に依る津波が発生したら高いところへ逃げるのが大切ですよと言われていました。命を守ることが大事であり、復興に向けた復興への強い意志が感じられ実感しました。参考になりました。

次に、5月9日（木）奥州市議会視察を行いました。テーマは、「議会改革全般について」。人口10万8千人で、農業・商業・工業を有した奥州市であり、野球のメジャーリーガー大谷翔平選手のふるさとでもあり、ふるさと応援団を結成し、関係団体、市内企業を中心としたサポーターも結成され、故郷から応援がされていた。また、

17日は背番号『17』のユニホームを着て、応援されていた。議員定数は28人、議員報酬は36万円、平均年齢は60歳、女性議員は4人、ここは議長がマニフェストとして改めて公表し、市民に寄り添った、大和を大切に取り組まれている様子であった。特に、議会活動の見える化の推進に努められていた。議員の女性4人、上は70歳、若い方は、43歳、平均60歳であった。女性の立場で活発な意見をされている様子でした。また、一般質問については、20人程度あり4日間、1日5人の発表ということでした。2022年の選挙は、28人/28人で無投票であった。

そして、5月9日（木）午後は、北上市議会視察で、テーマは「議員報酬見直し、市民と議員とつなぐ会について」でした。人口91,238人、工業団地造成や企業誘致に取り組み、現在は230社半導体や自動車産業ほか、機械、パルプ食品、医薬品など幅広い業種の企業を立地する都市に発展している。議員定数は26人、男性は18人、女性8人で、年齢層は39歳以下が2人、40歳～49歳は2人、50歳～59歳は6人、60歳～69歳が10人、70歳以上が6人でした。議会改革調査委員会があり、議会改革の活動がされていた。2024年3月、定数は30人から26人に4人減。報酬については、40万1千円と前回より5万円アップされていた。

今後の取組みについて

議員を志す人が立候補できる環境を整える。そして、議会の魅力を向上させ市民の発信を強化していった、特別委員会では十分できなかった政務活動費、議会研修の在り方、議会交際費のあり方等引き続き議会として検討が必要であるといわれていた。様々な人が、議員に立候補できる環境の整備が必要であり、今回3ヶ所の議会活性化改革を研修し、全てのところで共通するのが、議会運営（活動）が市民に住民に「みえるような」活動PRが必要であると感じた。大津町議会の活性化（改革）も重要であり、今後を活かしていきたいと思います。